

2017年に京都で ADI国際会議を開催

臨時・支部代表者会議で計画案発表

「家族の会」が主催 04年に続き二度目

「家族の会」は、2017年に国際アルツハイマー病協会（ADI）の国際会議を日本で開催することを決定しました。1月24日に京都で臨時・支部代表者会議を開催し、理事会から「2017年 ADI国際会議開催計画 I案」を示して説明し、了承を得られました。

具体的な日時、場所、会議テーマなどは、これからADIと協議して決定されてゆくこととなりますが、「I案」では、時期は2017年3月から5月の間で日程は3日間、場所は京都、テーマは“認知症 次の時代へ 世界がつながる 日本でつながる～認知症の人も介護者も尊厳ある人生が送れるために～”となっています。

「家族の会」は、2004年にもADI国際会議を京都で開催していますが、13年ぶり二度目の開催となります。

2004年の国際会議は、認知症がまだ「痴呆」と呼ばれている時期の開催で、認知症問題は世界共通の課題だということを社会に認識してもらうことを目的としました。その会議で、九州の57歳の越智俊二さんが認知症本人の思いを語ったことで、国内的にも国際的にも認知症への認識が変わり、その後の認知症ケアのあり方に大きな影響を与えました。そして、国際会議の3ヵ月後に「痴呆」



国際会議への期待が多く語られた臨時・支部代表者会議。発言するのは関東澄子宮城県支部代表（1月24日、京都市右京区のコミュニティ嵯峨野）

が「認知症」に替わったのです。

2017年の国際会議は、世界的に認知症への関心と取組みが進み、国内では新オレンジプランが展開されている時期に開かれます。04年の国際会議が「認知症新時代」を招くきっかけとなりましたが、今度はさらにそれを「次の時代へ」進めて本人も介護者も尊厳ある人生が送れる社会を目指す国際会議です。また、国内の認知症や介護に関わる団体の連携、協働を進めることも目的にします。会員みなさんにも出演、参加などの協力をお願いすることになります。具体的なことが決まり次第お知らせします。

なお、2017国際会議開催の正式決定は2月下旬のADI理事会で行われます。

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）が発表される

政府は1月27日、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を発表しました。発表に当たって、安倍首相を囲んで関係者の意見交換会が開かれ、「家族の会」を代表して宮城県支部の丹野智文さんが出席しました（P5参照）。

総合戦略には「基本的考え方」として次の7項目があげられています。①普及・啓発の推進 ②適時・適切な医療・介護 ③若年施策の強化 ④介護者への

支援 ⑤高齢者にやさしい地域づくり ⑥研究開発の推進 ⑦認知症本人や家族の視点の重視

これは、昨年の認知症サミット日本後継イベントの開会式で、安倍首相が厚生労働大臣に指示したことを受けて作成されたものです。作成に当たったのヒヤリングには「家族の会」から、高見国生代表や認知症当事者が招かれて意見を述べていました（ぼ～れぼ～れ1月号で既報）。